



大学のサバイバル

中 口 譲*

18歳人口が徐々に減少して全入時代を迎えるといわれた2009年からすでに7年が経過している。昨今の新聞では短期大学や地方大学が定員割れを起こし、生徒の新規募集を停止しているところもある。私が所属する近畿大学でも定員割れを回避すべく様々な取り組みを行っている。入試制度改革においては郵送による願書の提出を止め、全てインターネット出願に切り替えた。学生募集についてはオープンキャンパスを年4回実施し、入試相談コーナー、模擬講義、体験実験、オープンラボ、学内ツアー、近大マグロの無料試食会などを積極的に実施している。入学式や卒業式では本学卒業生の歌手に企画を依頼し、式の模様はインターネットで生中継されている。広報活動も積極的に行い、教員もバラエティー番組や情報番組へ積極的に出演し、マスコミからの問い合わせについてもコメンテーターガイドを作成し対応している。また、授業改善については「学生による授業評価アンケート」は前期・後期の授業で必ず実施され、他教員が授業を評価するピアレビューも実施されつつある。全学のFD（授業改善）研究集会は年2回、学部のFD集会も年2回必ず実施されている。学会出張などによる休講に対する補講は当然不可欠である。その甲斐あってかわからないが平成28年度の一般入学試験の志願者数は約12万人（推薦入試を含めると16万人）となり過去最高を記録し3年連続日本一となった。2016年春、近畿大学東大阪キャンパスは工事の真最中である。これは現在近畿大学が進めている「超近大プロジェクト」で、5つの新しい建物を建設しているところである。特に従来の図書館の概念を変える新しいタイプの図書館設備「アカデミックミーツ」が誕生する。大学のサバイバルはマグロに例えられる。つまり止まったら死んでしまうのである。ただ、大学は学問の自由を保障された学びの場であることも忘れてはならない。無意味な競争にあおられ、利益に結びつかないからといって特定の分野を排除してはならない。近畿大学の建学の精神は「実学教育」と「人格の陶冶」である。実学教育とは「研究成果を社会に役立てる」という意味であり、人格の陶冶とは「人を教え、立派なものに育てる」という意味である。つまり儲からない研究はするなど言っているわけではない。

*近畿大学理工学部教授、一般財団法人海洋化学研究所理事